

南粕谷小だより

第451号

一日一日を大切に

校長 山下直丈

2学期が始まって一月がたちました。つい最近まで、まだ2学期が始まったばかりのように感じていましたが、すでに2学期の四分の一が過ぎたわけです。あらためて時間の過ぎる速さに驚いています。ここ数年は、いつまでも暑い日が続き、その後さわやかな秋らしい雰囲気になったかと思うと、すぐに気温が下がって冬のようになっていました。温暖化の影響なのか、日本も、夏と冬の2つしかない国になってしまうのかなと、残念な気持ちです。今年こそは、秋らしいさわやかな季節を堪能したいと思っています。

さて、つい最近、校長室に音楽室からリコーダーの伸び伸びとした音が聞こえてきました。音色に誘われて音楽室をのぞいてみると、3年2組の児童が「思い出のアルバム」の練習をしていました。まだリコーダーに慣れないながらも、音階をたどりながら一生懸命練習していました。ほほえましく感じました。また、2・3日後、中庭で作業をしていると、校舎の3階から6年生がリコーダーで吹いていたパッヘルベル作曲の「カノン」が聞こえてきました。難しい曲ですが、テンポもしっかりとしていて音色もとてもきれいでした。吹いている姿は見えませんが、自分のリコーダーの音色を聞きながら演奏しているという様子がよく分かり感心しました。担任の先生に聞いてみると、「リコーダーが好きで、放課中にも楽しみながら練習している子が何人もいますよ。」とうれしそうに教えてくれました。「楽しみながら練習する」ことができるのはとてもよいことだと感じました。頑張ったことで自分が上達しているという実感がもてるから、楽しくなるのでしょう。リコーダーを聞きながら、「物事を知識として知っているだけの者は、それを愛好する者におよばない。さらに、それを愛好する者は、それを楽しんでいる者には及ばない。」という言葉思い出しました。秋のさわやかな空気・光と伸び伸びとしたリコーダーの音が重なり合い、とても気持ちよく感じられました。

勉強でも、運動でも、演奏でも、何でも、初めから楽しくできることは多くはありません。苦勞を乗り越えるための努力が必要です。学習というと、ともすれば「努力するもの」とか「苦勞するもの」というイメージが付きまといがちですが、少しでも成果を実感でき楽しんで取り組めるようにしていきたいものだと感じました。



【交通安全教室】

【歯みがき指導】

【「たんぽぽさん」による読み聞かせ】

